

第 1 回防災推進国民大会においてシンポジウムの主催と展示を実施しました (2016/8/27-28)

テーマ：東日本大震災、熊本地震、災害研究
場所：東京大学本郷キャンパス 小柴ホール（東京都文京区）

2016年8月27日（土）と28日（日）の2日間、東京大学本郷キャンパスにおいて、内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する第1回防災推進国民大会が開催され、その参加行事として、28日の午後に、東北大学災害科学国際研究所の主催で、シンポジウム「東日本大震災・熊本地震を踏まえた東北からの災害研究の発信」を、理学部の小柴ホールにて開催しました。当日は80名近い方にご参加いただきました。

シンポジウムでは、当研究所の今村文彦所長より開会と趣旨説明、次に、原信義東北大学理事（震災復興推進担当）があいさつを行いました。続く講演は、丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）による司会で、遠田晋次教授（災害理学研究部門）が「地表に出現した熊本地震の断層」と題して、2016年4月に発生した熊本地震のハザードの特徴を解説し、次に、江川新一教授（災害医学研究部門）より「被災地でからだところの健康をまもる」と題して、災害時の医療体制の現実と改善点等について講演しました。続いて、柴山明寛准教授（情報管理・社会連携部門）が「東日本大震災から6年目の今と現場から学びとれること～東日本大震災デジタルアーカイブ～」と題して、大震災による被害とその後の復興過程などの記録保存についての取組を発表し、村尾修教授（地域・都市再生研究部門）より「仙台防災枠組みと災害統計グローバルセンター」と題して、2015年3月の国連防災世界会議以降の当研究所の取組について紹介しました。最後に、奥村誠副所長より、むすびとして「東北大学災害研のこれから～社会に役立つ学術研究へ～」と題して当研究所が今後どのようにして社会に貢献していくかのビジョンを示しました。また、各講演の後には、会場からの活発な質疑応答も行われました。

加えて、27日（土）、28日（日）の両日、小柴ホールホワイエの展示ブースにおいて、「実践的防災学の体系化と地域実証・国際展開」をテーマに出展しました。展示内容は、当研究所の紹介、東日本大震災から5年の復興状況、津波シミュレーションの映像、被災した歴史資料のレスキュー・保存方法であり、サッパシーアナワット准教授（災害リスク研究部門）、天野真志助教と寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）、山下啓助教（寄附研究部門）、小林徹平助手（情報管理・社会連携部門）などが立ち会って説明を行いました。数多くの来訪者に展示内容の紹介と説明をし、パンフレットなどの配布を行うことができました。

なお、来年2017年は、第2回防災推進国民大会を仙台市において開催する予定です。



開会（今村所長）



あいさつ（原理事）



司会・進行（丸谷教授）



講演（遠田教授）



講演（江川教授）



講演（柴山准教授）



講演（村尾教授）



むすび（奥村副所長）



シンポジウム会場の様子



展示の様子